

## 令和元年度大阪府

### 在宅医療移行支援事業

#### (在宅医療普及促進事業)

在宅医療担当理事 米 田 円

#### 【おしごと】

大阪府が近年、在宅医療提供体制を充実させるための施策として挙げる項目としては、基礎機能となる日常の療養支援を中心に事業展開し、地域偏在等の課題に対応した体制整備を実施すること、さらに平成30年度からは急変時対応（往診体制）の充実に重点化し、市町村事業への支援を実施することとしております。この取組みのなかで、地区医師会に求められている事業が、この「大阪府在宅医療移行支援事業（在宅医療普及促進事業）」であります。本事業は平成30年度から開始され、令和元年度も引き続き実施されることになったわけですが、平成30年度事業内容が「ACP（※）を含む在宅医療の理解促進研修」

を補助対象としていたのに対し、令和元年度は「ACPの理解促進研修」とした様に、主目的をACP一本に絞ったということが大きく異なる点であります。

(※) アドバンス・ケア・プランニング…人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス、通称…人生会議

#### 【事業目的】

在宅医療に携わる医療従事者等を対象に、ACPを含め、平成30年3月に改定された「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに対するガイドライン（以下、ガイドライン）」の理解を促進することで、ガイドラインを実践し、患者・家族を支援する。

#### 【事業実施内容】

本会では、在宅医療推進事業の一環として、これまでに在宅医療を考える会（以下、考える会）を定期的に開催して参りました。ここでは、会長、副会長をはじめ、在宅医療に従事して

いる診療所会員、北サポコーディネーター、北区訪問看護ステーション所長を構成メンバーとして、事業展開に関する様々な課題等について協議しております。本事業の実施にあたりまして、令和元年9月14日に開催された第25回考える会にて、その具体的内容につき協議した結果、在宅医療に携わる医療従事者向けの講演会を第9回在宅医療勉強会として本会会館5階中島谷ホールで開催することにしました。講演テーマは「人生の最終段階を在宅で支えるための意思決定支援」ACPの基本的な考え方・実践方法」とし、講師の選定については、事前に複数の先生を候補に挙げていましたが、日程的に調整可能であった先生を招聘することにしました。その結果、秀社会クリニック院長 熊野宏二先生、佛教大学保健医療技術学部 看護学科准教授 濱吉美穂先生のお二方に決定、熊野先生からは演題「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインおよびACPについて」を、濱吉先生からは演題「医療・介護現場におけるACPの実践」をタイトルとしてご講演頂くことになりました。当日使用する資料として、濱吉美穂先生が作成した「わたしのいきかた手帳」(図1)を配布することになりました。この「わたしのいきかた手帳」は、患者目線に立ち、患者個人が家族や親しい人に自分の将来や意思など大事なことを柔軟かつ段階的に伝えるための内容が記載されており、ACPを進めるにあたり非常に有用と考えられる冊子で

す。現在、サイト (<https://acpkaiji.base.ec/>) より入手可能(一冊330円)です。当初は本手帳を講演会とは別に会員への配布用として余分に購入する予定でした。しかしながら、考える会において、予算の都合上、本会内で独自に簡素化して作成した方が良いとの意見が多数を占めたことから、既に本会で作成し、多くの在宅の現場で利用されている「在宅連携、連絡ノート(以下、ノート)」を、医療従事者に向けたACP周知・啓発を目的として活用することとしました。本勉強会の開催日時については当初、令和元年10月12日(土) 14時からとしていましたが、台風第19号(令和元年東日本台風)の影響で中止となり、令和2年2月22日(土)に延期することとしました。ところが、開催間近になり、今度は新型コロナウイルス流行の影響



図1 : 「わたしのいきかた手帳」表紙

で、この日の開催も中止せざるを得なくなりました。

一方で、ノートの活用については講演会の準備と並行して、西平綾子先生（本会理事）、北サポの辰田美子氏、藤本妙子氏と当方とで、その改定作業に取組んでおりました。厚生労働省作成のパンフレット等を参考に原案を作成、本会執行部に提出して検討された結果、ノートとは別にACP啓発用としてリーフレットを作成し、それを本ノート内に挟み込むこととしました。本ノートは在宅患者本人だけでなく、多職種の担当者が自由に書き込める様になっており、使いきったら2冊目、3冊目となります。その際に、ACPの部分のみをリーフレットとしてノートに挟んで保管しておくようにするというのが主な理由です。その後、西平先生と検討を重ね、二つ折りリーフレット（案）を作成しました。本リーフレットは決してACPについて全てを網羅したのではなく、あくまで医療従事者、そして患者・家族に周知・啓発するための第一歩的なニュアンスを主に作成されています。レイアウトやデザイン考案は西平先生に御担当頂き、カラフルで暖かい雰囲気のある素晴らしいリーフレットが出来上がりました（図2、3、4、5）。またノートも含めて、全体をB5サイズからA4サイズにしました。その新ノートについて、その表紙裏に掲載されていた文言はイラストを付けて、分かりやすく簡潔にし（図6）、裏表紙裏には在宅連携医療機関の欄に「かかりつけ」の表現を取り入れました

（図7）。第26回考える会にて、参加者による最終的な確認・修正作業を経て、完成に至りました。発行部数は1000部で、近い内に会員の皆様に届けられると思われまますので、是非、この機会に一度手に取ってみて、ご覧頂ければ誠に幸いです。

このACPを含め、先述のガイドライン内容につきましては、昨今、厚生労働省が高齢多死社会の進行に伴い、地域包括ケアシステムの構築に対応するための施策としていと共に、私共医療従事者にとつて、今後も在宅の場で多職種連携を図りつつ、患者個人の意思を尊重し、人生の最終段階を迎える過程において重要な作業内容になるものと思われまます。従いまして、先述の講演会は立ち消えにはなりませんが、これで終了とはせずに、時機をみて企画・開催をしたいと考えております。会員の皆様におかれましては、今後ともご理解とご協力を頂きます様、何卒宜しくお願い申し上げます。

#### 【最後に】

本事業実施にあたり、講演の準備やノート改定およびリーフレット作成・発行のために多大なご尽力を頂きました西平綾子先生をはじめ、辰田美子氏と藤本妙子氏の両北サポコーディネーター、本会執行部の先生方、在宅医療を考える会にご参加頂いた先生方や北区訪問看護ステーション所長に深謝申し上げます。



図2：リーフレット1頁目（表紙）

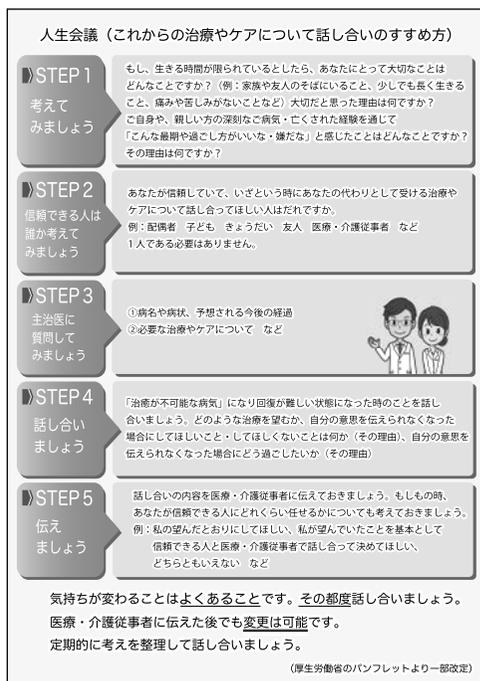


図3：リーフレット2頁目（表紙裏）

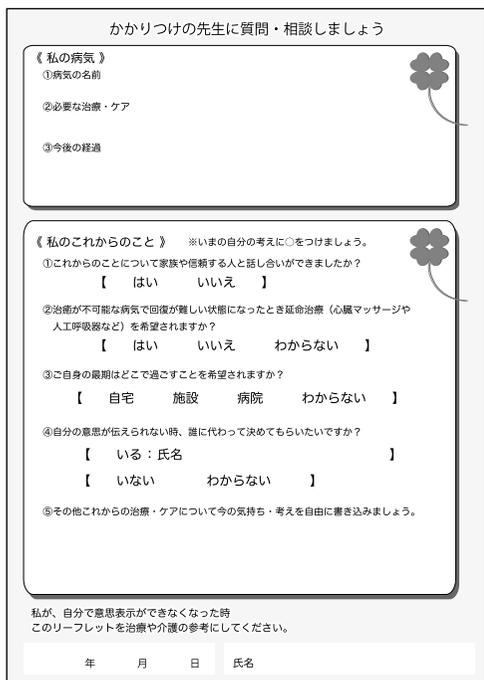


図4：リーフレット3頁目（裏表紙裏）



図5：リーフレット4頁目（裏表紙）

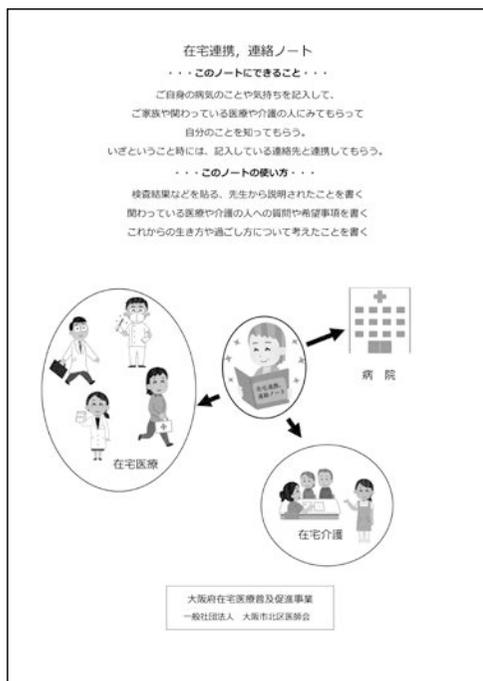


図6：「在宅連携、連絡ノート」表紙裏

氏名	
性別	
生年月日	
住所	
電話番号	
【緊急連絡先】	
氏名	
続柄	
電話番号	
医療・介護関係者	
(主) かかりつけ医 1	☑
かかりつけ医 2	☑
かかりつけ医 3	☑
かかりつけ歯科	☑
かかりつけ薬局	☑
訪問看護	☑
訪問介護	☑
ケアマネジャー	☑
その他	☑
一般社団法人 大阪市北区医師会 〒530-0053 大阪市北区東広町 3-14 電話 06-6312-3531 FAX 06-6311-3799 URL <a href="http://www.kita-med.jp/">http://www.kita-med.jp/</a> 医師会立北区訪問看護ステーション 看護・介護で何かお困りの事がありましたら、お気軽にお電話下さい。 〒530-0026 大阪市北区神山町 15-11 北区在宅サービスセンター「いいきネット」内4階 電話 06-6313-1415 FAX 06-6313-1416	

図7：「在宅連携、連絡ノート」裏表紙裏

